

# Essay

Sapiarc.com

2014年11月6日(2014-7)

## 就任6年後の President Obama

President Obama の登場を迎えた6年前のあの熱気はどこへ消えてしまったのだろうか？昨日投票の結果が出たアメリカの中間選挙で、民主党は大敗を喫して、上下両院とも共和党が圧倒的な勢力を占めるに至った。オバマ氏が不人気なことによって、民主党への票が減ったとされている。アメリカの政治が移ろいやすいことは今に始まったことではないが、6年前との差が大き過ぎたのが、今回の中間選挙の結果だった。

これまでにオバマ氏がしてきたことは悪くなかったと、私は思っている。就任時に人気が高かっただけに、それを維持する、あるいはもっと高めるには、何かアクロバティックなことでもするしかなかったのだろう。彼は、そういう手を使うには、余りにも理知的であり過ぎたのかもしれない。また、取り巻きに良い人が居ないということもあるようだ。その点については、上院議員としてもっと経験を積んで、地道に人望を集めてから大統領になっていれば良かったと思う。

アメリカの歴代大統領で理知的な人は少ないようだ。むしろそういう人は大統領にはなれないのがアメリカというところだと思う。実は、これは、多かれ少なかれ他の国についても言えることなのだろう。政治的であるということと理知的であるということが両立しないのは残念なことだ。その狭間にあって、オバマ氏が過去約6年間苦闘してきたことは、彼の全身が語っている。先日の国連総会で彼が演説している様子をテレビで見て、白髪が目立つようになり、思いなしか少し痩せたように見えたので、気の毒になった。今後の約2年間に、大統領として後に残る業績を挙げることができるよう祈りたい。（おわり）